

令和2年度 国立三瓶青少年交流の家 教育事業 体験活動普及啓発事業
さんべで夏体験！！ 自然遊び or オリエンテーリング(日帰りバージョン)

1 趣 旨

- 夏の三瓶で、自然遊びやオリエンテーリング等の活動の体験を通して、三瓶地域の自然や体験活動への興味、関心をもってもらおう。
- 家族で一緒に活動する楽しさを味わってもらおう。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ①6月14日(日) ②6月21日(日)
③6月28日(日) ④7月5日(日)
- (2) 場 所 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 参加対象 幼児、または小学生とその家族
- (4) 募集定員 各プログラム5家族程度(先着順)(最少催行1家族)参加者
- (5) 参加者 ①2家族7名 ②6家族22名 ③7家族28名 ④6家族23名

計21家族80名

(6) 日 程

	9:00	9:30	11:30
①6/14(日)	受 付	【自然遊び ※荒天時：木の葉のスタンプバック】 or 【オリエンテーリング ※荒天時：室内オリエンテーリング】	解 散
②6/21(日)			
③6/28(日)			
④7/5(日)			

3 事業の内容

(1) プログラムデザインと企画のポイント

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の解除直後で、宿泊を伴う事業の実施が見通せない状況や、自粛生活が続き、自然体験活動の機会が必要であることを考え、日帰りでの事業実施を検討した。

今回提供するプログラムは、「自然遊び」「オリエンテーリング」とした。当所の既存のプログラムであることと、職員の工夫を加えることで、さらに多様な楽しみ方ができる内容とした。また、荒天時には、自分で集めた葉っぱを使って製作できる「木の葉のスタンプバック」、感染症に伴う利用者受入停止期間中に新規に準備をした「室内オリエンテーリング」を用意した。

(2) 運営のポイント

「自然遊び」は、葉っぱを使った「葉っぱじゃんけん」、自然の中に隠された人工物を探し出す「カモフラージュ」、自然にあるものに目玉を付けて怪物を創り出す「めだまっち」、自然の中から様々な物を見つけ出していく「フィールドビンゴ」、袋の中に入っているものを手で触り、同じ感触の物を自然の中から見つけ出す「感触の宝箱」など、様々な遊びを参加者に楽しんでもらった。参加者の人数や年齢層から、遊びを行う動線や遊びの内容に変化をつけて、飽きずに楽しめる配慮をした。

「オリエンテーリング」は、従来のオリエンテーリングに加え、夏の動物をポストに貼って、幼児でも理解しやすい内容にしたり、「トレジャーハンター」と称して、ポストと共に宝物を見つけたりできるようにした。オリエンテーリングの地図を、宝物が隠された地図にデザイン変更するなど、参加者が冒険者となって楽しめる配慮をした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) 参加者の声

- ・普段家の周りではできない自然体験ができてよかったです。スタッフが気さくで、子供がすぐに打ち解けて、話をしてくれしそうでした。
- ・「一緒に自然の中を歩けたらいいな。」という感じで参加したのですが、思ったより子供が分かっているようでびっくりしました。葉っぱを探したり、目玉を付けたり、親が思う以上に子供はちゃんと理解しているんだと発見できました。
- ・山の中で自然に親しむ活動には興味があり、子供に是非、体験させたいと思い参加しました。初めての参加でしたが、スタッフの方々もとても親切で(事前のメール、電話も含めて)楽しく活動できました。子供は、カモフラージュがおもしろかったようです。また、三瓶に来てみたいと思いました。
- ・自然の中で体を動かしながら、全身で楽しむことができました。子供の満足そうな表情が印象的でした。ありがとうございました。

(2) アンケートの集計 計21家族 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	95	5	0	0
事業のプログラム	95	5	0	0
事業の運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

5 成果と課題

《成果》

- ・当所では、宿泊事業を中心に企画・実施しているため、日帰りでの事業の実施回数は少ないが、参加者が無理なく参加でき、満足できるプログラムを提供することができた。1回目のみ雨天での実施となったが、新規のプログラムとなる「室内オリエンテーリング」でも十分に楽しめることが分かった。また、既存開発プログラムでも、工夫次第で、様々な要素を取り込むことができ、新たなプログラム開発につながれるとともに、職員のスキルアップとなった。

《課題》

- ・今回、日帰りでの事業を実施したことで、新型コロナウイルス感染症禍における利用者の日帰り事業のニーズの高さを実感した。今後は、宿泊の事業と合わせ、日帰りの事業でも体験活動を広めていくことを検討する必要がある。



(担当：事業推進室長 田邊 治生)